

Doc. 3178

Evid.

Folder 23

(24)

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 3178

Date: 25 September 1947

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Typewritten copies, "In Regard to the Tripartite Pact" (SANKOKU JOYAKU NI TSUITE)

Date: Presumably after outbreak of Greater East Asia War Original Copy
Language: Japanese

Has it been translated? Yes No

LOCATION OF ORIGINAL: Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: Unknown

PERSONS IMPLICATED: MATSUOKA, Yosuke

CRIMES OR PHASE TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: Tripartite Pact --
Preparations for war against U.S. and Britain

SUMMARY OF RELEVANT POINTS:

Document states that the original purpose of the Tripartite Pact was to bring about the cooperation of Japan, Germany and Russia which would strengthen the position of Japan against Britain and America and contribute to the disposition of the China Incident. In November 1940, Germany presented the Ribbentrop Plan to Molotov. Molotov agreed to the Plan but submitted terms consisting of thirty articles that Germany could not approve. When MATSUOKA visited Berlin, he was told by Hitler and Ribbentrop that Russia must be attacked. MATSUOKA visited Moscow on his way home and concluded the Russo-Japanese Neutrality Pact, contrary to German expectation. When war broke out between Germany and Russia, a Japanese-American rapprochement became necessary because the hope for Russo-Japanese-German cooperation vanished. The Army, however, adhered to the alliance with Germany and brought about the catastrophe in the Pacific.

Analyst: 1st Lt Fred F. Suzukawa

Doc. No. 3178
Page 1

IPS Doc # 3178

Jwa

三國同盟ニ就テ

三國同盟ニ就テ

獨伊トノ間ニ軍事同盟ヲ締結スベシトノ議ハ昭和十三年夏第一次
近衛内閣當時大島駐獨武官ヲ通ジ獨乙側ヨリ提案セラレタノデア
此時ノ同盟ノ對象ハソ聯デアツテ當時已ニ存在セル日獨伊防共協
ノ延長トシテ計畫セラレタモノデア
此同盟締結ノ議ハ昭和十四
年一月近衛内閣ヨリ平沼内閣ニ引繼ガレ同内閣ニ於テハ五相會議ヲ
開クコト七十何回ニ及ビタルモ議マトマラズ同年八月ニ至リ獨乙ハ
日本ニ何等相談ナク突如此同盟ノ對象タルソ聯ト不可侵條約ヲ結
ン
ダ
之カ爲平沼内閣ハ複雜怪奇ナル國際情勢云々ノ語ヲ發シテ退陣
シカクテソ聯ヲ對象トスル三國同盟ノ議ハ立消エトナツタノデア

然ルニ翌昭和十五年春ニ至リ獨乙ハ被竹ノ勢ヲ以テ西ヨーロッパ
 ヲ席捲シ英國ノ運命モ亦頗ル危殆ニ瀕スルヤ再ビ三國軍事同盟ノ議
 カ猛烈ノ勢テ國內ニ播頭シ來ツタ 只前年ノ同盟ハソ聯ヲ對象トシ
 タルニ對シ今度ハ英米ヲ對象トスル點ニ於テ根本的ニ性質カ異ルノ
 デアル 余カ昭和十五年七月第二次內閣組織ノ大命ヲ拜シタル時ハ
 反英米熱ト日獨伊三國同盟締結ノ要望カ陸軍ヲ中心トシテ一部國民
 ノ間ニハ正ニ沸騰點ニ達シタル時デアツタノデアアル

三國同盟ハ昭和十五年九月廿七日ニ締結セラレタノデアアルガ其前
 ニ獨乙外相リツベントロツプノ特使トシテスターマー公使來リ同公
 使ハ松岡外相ト九月九日十日兩日會見懇談シタ 其時ノ會談記録ハ
 同盟ノ具体目標及成立事情ヲ知ル上ニ於テ極メテ重要デアアルカラ其
 一部ヲ左ニ抜萃スル

- 一 獨乙ハ今次戰爭ガ世界戰爭ニ發展スルヲ欲セズ一日モ遲ニ之ヲ終結セシムルコトヲ望ム 而シテ特ニ米國カ參加セザリシ事ヲ希望ス
- 二 獨乙ハ此際對英本國戰爭ニ關シ日本ノ軍事的援助ヲ求メズ
- 三 獨乙ガ日本ニ求ムル所ハ日本ガアヲユル方法ニヨリテ米國ヲ牽制シ其參戰ヲ防止スル役務ヲ演ズルコトニアリ獨乙ハ今ノ處米國ハ參戰セズト思惟スルモシカモ萬コレナキヲ期セントスルモノナリ
- 五 獨乙ハ日獨間ニ了解或ハ協定ヲ成立セシノ何時ニテモ危機ノ襲來ニ對シテ完全ニ且效果的ニ備フルコト兩國ニトリ有利ナリト信ズ カクシテノミ米國カ現在ノ戰爭ニ參加スルコト又ハ將來日本ト事ヲ構フルコトヲ防止シ得ベシ

六 日獨伊三國側ノ決意セル毅然タル態度明快ニシテ誤認セラレザル底ノ態度ノ堅持ト其事實ヲ米國ヲ始メ世界ニ知悉セシムルコトニヨリテノミ強力且有效ニ米國ヲ抑制シ得 反之軟弱ニシテ微溼的ナル態度ヲ採リ若クハ聲明チナス如キハ却テ侮蔑ト危險トヲ招クニ止マルベシ

七 獨乙ハ日本カ能ク現下ノ情勢ヲ把握シ以テ西半球ヨリ來ル事アルベキ危險ノ重大性ト現實性トヲ自覺シ以テ米國始メ他ノ列國ヲシテ稀聲願測ノ餘地ナカラシムル如キ日獨伊三國間ノ協定ヲ締結スルコトニ依リテ之ヲ豫防スル爲迅速且決定的ニ行動センコトヲ望ム

十 先ヅ日獨伊三國間ノ協定ヲ成立セシメ然ル後直ニソ聯ニ接近スルニ如カズ 日ソ親善ニ付獨乙ハ「正直ナル仲買人」タル用意ア

リ 而シテ兩國接近ノ途上ニ越ユ可ラザル障害アリトハ覺エズ
從テサシタル困難ナク解決シ得ベキカト思料ス 英國側ノ宣傳ニ
反シ獨ソ關係ハ良好ニシテソ聯ハ獨乙トノ約束ヲ満足ニ履行シツ
ツアリ

十一 福輻國（日本ヲ含ム）ハ最悪ノ危險ニ備フル爲徹底的用意ア
ルベキハ勿論ナルモ併シ一面獨乙ハ日米間ノ衝突回避ニアラユル
努力ヲ吝マザルノミナラズモシ人力ノ能クナシ得ル所ナラバ進ン
テ兩國々交ノ改善ニスラモ盡カスベシ

十四 スターマーノ言ハ直ニリッツベントロツプ外相ノ言葉トシテ受
取ラレ差支ナシ

此會議記録ニヨリテモ知ラル、如ク三國同盟條約締結ニハ具体目標
カニツアルノチアル 第一ハアメリカノ參戰ヲ防止シ戰禍ノ擴大ヲ

防グコトデアル 第二ハ對ソ親善關係ノ確立デアル

第一 米國ノ參戰防止

三國同盟締結ノ際賜ハレル詔書ニ「禍亂ノ戡定平和ノ克復ノ一日
 モ速ナランコトニ軫念極メテ切ナリ」ト仰セラレタルハ即チ米國
 ノ參戰ヲ防止シ世界戰亂ノ擴大ヲ防ガントスル御主旨ナノデア
 然シナガラ三國同盟ノ締結ガ果シテ米國ノ參戰ヲ防止スル效果
 リヤ否ヤニ就キテハ大ニ議論ガアツタ 締結直前ノ御前會議ニ於
 テモ「米國ハ從來日本ガ獨伊側ニ走ルヲ阻止スル爲日本ニ對スル
 壓迫ヲ手控エテ居ツタガ日本ガ愈獨伊側ニ立ツト云フ事ニナレバ
 自負心強キ被國民ノ事ユエ之ニ依リ反省スルトコロカ却テ大ニ硬
 化スベク日米國交ノ調整ハ一層困難トナリ遂ニハ日米戰爭不可避
 ノ形勢トナルベシ」トノ説モ出タ 然シナガラ松岡外相ハ「日米

8

ノ國交ハ今日迄ノ經驗ニヨレバ最早融談又ハ親善希求等ノ態度ヲ
以テシテハ改善ノ餘地ナク却テ彼ノ侮蔑ヲ招キテ惡化サス丈デア
ルモシ之ヲ改善シ此上ノ惡化ヲ防グ手段アリトスレバスタ！マ
ーノ言ノ如ク唯毅然タル態度ヲ採ルト云フ事シカ殘ツテ居ナイ
ソノ毅然タル態度ヲ強メル爲ニ一國テモ多クノ國ト提携シ且其事
實チ一日モ速ニ中外ニ宣明スルフトニ依リテ米國ニ對抗スルコト
ガ外交上喫緊事デアル然シ本大臣ハカ、ル措置ノ反響乃至效果
ヲ注視シツ、尙米トノ國交ヲ轉換スル機會ハ之ヲ見逃サナイ積チ
アル唯ソレニシテモ一應ハ非常ニ堅イ決心ヲ以テ毅然對抗ノ態
度ヲ明確ニ示サネバナラヌト論ジタノデアアル

此兩國ノ何レガ正シカリシカ即三國同盟ノ締結カ果シテ米國ノ
參戰ヲ防止スル丈ノ效果アリシヤ否ヤハ永久ノ謎デアアル何トナ

レバ昭和十六年十二月米國未ダ參戰セザルニ米國ノ參戰防止ヲ目
 標トシタル日本自身ガ進ンデ米國ニ宣戰シテシマツタカラデア
 只少クトモ同盟締結後約一年有餘米國ガ參戰シナカツタト云フ事
 實ハ三國同盟ノ效果デアツタト云ハレヌ事ハナイ 現ニ米國ハ十
 六年四月ヨリ開始サレタル日米交渉ニ於テ終始三國同盟ヲ骨抜き
 ニスベク執拗ニ努力シタノデア
 此事ハ三國同盟ガ米國ニ取リ
 厄介ノ代物デアリ此同盟ノ存スル限り米國ハ容易ニ參戰スルヲ得
 ナイ事實ニアツタコトヲ雄辯ニ物語ツテ居ルト思フ

第二 對蘇親善關係ノ確立

三國同盟ノ第二ノ具体目標ハ獨ソ不可侵條約成立後ノ獨ソ親善關
 係ヲ更ニ日ソ關係ニ擴大シテ日ソノ國交調整ヲ圖リ出來得レバ進
 ンデ日獨ソノ連携ニ持ツテ行キ之ニ依リテ英米ニ對スル日本ノ地

歩ヲ強固ナラシメ以テ支那事變ノ處理ニ資セントスルコト是デア
ル

元來余ハ熱心ナル日米國交調整論者デアツタ 昭和九年自ラ米
國ニ赴キ朝野ノ士ニ親シク懇談シタノモ何トカシテ日米間ノ問題
ニ解決點ヲ見出シ以テ太平洋ノ平和ニ貢獻セントスル微意ニ外ナ
ラナカツタ 然シナガラ事志ト違ヒ其後日米ノ國交ハ只々惡化ノ
一踏ヲ辿リ殊ニ支那事變以來ハ兩國ノ國交ハ極度ノ行詰リヲ呈ス
ルニ至ツタ カ、ル形勢トナリシ以上ハ松岡外相ノ云ヘル如ク最
早禮讓トカ親善希求トカ云フ態度ノミデハ國交改善ノ餘地ハナイ
勿論日本政府トシテハカ、ル親善希求ニノミ終始シタワケデハナ
イ 歷代ノ外相殊ニ有田、野村兩外相ハ外交ノ主力ヲ米國政府ト
ノ直接交渉ニ向ケ日米間最大ノ問題タル支那問題ニ關スル了解ニ

到達スル爲修脯タル努力ヲ重ネタノデアアル 併シナガラコレラノ
 努力モ何等ノ效ナク最早米國相手ノ結合ノ途ヲ以テシテハ目的ヲ
 達スルコト絶望視サレルニ至ツタノデアアル 然カモ日本カ世界ニ
 孤立スル危険ハ刻々ニ迫ツテ居タ 茲ニ於テ唯一ノ打開策ハムシ
 ロ米國ノ反對陣營タル獨伊ト結び更ニ蘇聯ト結ブコトニヨリテ米
 國ヲ反省セシムル外ハナイ 獨伊ダケテハ足りナイ 之ニソ聯カ
 加ハルコトニ依リテ初メテ英米ニ對スル勢力ノ均衡カ成リ立チ此
 勢力均衡ノ上ニ視メテ日米ノ了解モ可能トナルデアロウ即チ日獨
 ソノ連携モ最後ノ狙ヒハ對米國交調整デアリ其調整ノ結果トシテ
 ノ支那事變處理デアツタノデアアル

日米國交調整論者ナリシ余ハ一面ニ於テ對ソ警戒論者デアツタ
 對ソ接近ヲ好マザル余カ何故ニ日獨ソノ連携ニ賛成シタカト云ヘ

バ上述ノ如ク當時ノ形勢ニ於テハ一方ニ於テムシロカクスルコト
方米國トノ了解ニ到達シ得ベキ唯一ノ途ト考ヘラレタノミナラス
他方警戒スベキソ聯ノ危殆ハ日本ト獨乙トガ東西ヨリソ聯ヲ牽制
スルコトニヨリテ十分緩和シ得ルト信ジタカラデアアル

獨乙ハ松岡スターマー會談録ニモアル如ク日ソ國交調整ニ努力
スベク約束シスターマー特使ハ歸國後大ニ努力スベシト云フテ去
ツタ

カタテ獨乙ハ少クトモソ聯外相モロトフガ十五年十一月伯林ヲ
訪問シタマデハ日獨ソ運携ノ方向ニ向ツテ進ンデ居タノデアアル
其證據ニハ當時獨乙ヨリリッペントロツプ腹案ナルモノガ送ラレ
テ來タノデアアル 即チ左ノ如シ

日獨伊チ一方トシソ聯ヲ他方トスル取極ヲ作成シ

一 ソ聯ハ戦争防止平和ノ迅速回復ノ意味ニ於テ三國條約ノ趣旨
ニ同調スルコトヲ表明シ

二 ソ聯ハ歐亞ノ新秩序ニ付夫々獨伊及日ノ指導的地位ヲ承認シ

三 國領ハソ聯ノ領土尊重ヲ約シ

三 三國及ソ聯ハ各地方ヲ敵トスル國家ヲ援助シ又ハ斯クノ如キ

國家群ニ加ハラザルコトヲ約ス

右ノ外日獨伊ソ何レモ將來ノ勢力範圍トシテ

日本ニハ南洋、ソ聯ニハイラン印度方面、獨乙ニハ中央アフリ

カ、伊太利ニハ北部アフリカ、

ヲ容認スル旨ノ秘密了解ヲ遂グ

此リ外相腹案ニ對シテハ政府トシテ同意ノ旨ヲ答ヘリ外相ハ同年

十一月モロトフソ聯外相ニ之ヲ提示シタノデアル

B4 (四京五〇二)

以上ノ如ク三國同盟ハ將來ソ聯ヲ同盟國ニ引入レルト云フコトヲ
前提トシテ締結サレタノデアアル。然ルニ翌十六年三月松岡外相ガ伯
林ヲ訪問スルヤヒ總統モリ外相モ口ヲ極メテソ聯ノ不信暴狀ヲ語リ
前述ノリツペントロツプ腹案ニ就テモモロトフハ原則トシテ之ニ贊
成シナガラ獨乙トシテ到底承認出來又三十何個條ノ交換條件ヲ提出
シタト云ヒ「ソ聯ニ對シテハ一度打撃ヲ加ヘザレバ歐洲ノ禍根ハ到
底除カレヌ」トナシ前年ノ三國條約締結當時ノ約束トハ打ツテ變ツ
タ話デアアル。ソコデ松岡氏ハリ外相ニ對シモシ獨ソノ間ニ事起ラバ
日本トシテハ非常ナ影響ヲ蒙ル故此戰爭ニハ我ニ同意シ難キ旨ヲ述
ベ又「歸路ニハモスコウニ立寄り日ソ國交調整ノ區ヲ進メル考デア
ル」ト言ツタノニ對シリ外相ハ「ソ聯ハ不信ノ國ユエ其斷ハムツカ
シイダロウ」トノコトデアツタカラ松岡氏ハ「然シナガラモシ話ガ

出來タラドウダ」ト譯ホタトコロリ外相ハ「出來タラソレハ結構デアルガ然シ到底變ラナイダラウ」ト言フタト云フノデアル（以上ハ松岡外相歸朝後ノ報告談話）

松岡外相ハ歸路モスコウニ立寄りソ聯當局ト交渉ノ結果日ソ中立條約ハ獨乙ノ豫想ニ反シテ成立シタ 大島大使ノ電報ニヨレバ此統ハ頗ル之ヲ意外トシタラシク又リ外相ハ同大使ニ「自分ハ松岡外相ニ對シアレ程ハツキリト獨ソ戰ノ不可避ナルコトヲ御話致シテ置イタノニ其相手ノソ聯ト中立條約ヲ締結サレタコトハソノ眞意了解ニ苦シム」ト意味ヲ述べテ居ル

リ外相ノ言フ所ト松岡外相ノ言フ所トハカク嘘ヒ違ツテ居ル コレ双方ノ誤解力故意ノ曲解カソレハ暫ラク措クトシテトモ角モ獨ソ關係ハソノ後益惡化ノ度ヲ加ヘ來リ四月以降ノ大島大使ノ電報ハ

悉ク開戦ノ迫レルコトヲ暗示スルモノデアツタ。爰ニ於テ我政府トシテモ默然シ待ズ。五月二十八日松岡外相ノ名ヲ以テリ外相ニ「現下ノ我國ヲ廻ル國際情勢及我國內情勢ニ鑑ミ本大臣トシテハ獨乙政府ガ此際斷フ限リソ聯トノ武力衝突ヲ避ケラル、機希望ス」ト云フ。メツセーシチ達ツタ。之ニ對シリ外相ノ返事ハ「今日トナリテハ最早獨ソ戰ハ不可避ナリ。乍然戰爭トナラバ二三ヶ月ニシテ作戦ハ終結シ得ベキコトヲ確信ス。此點自分ヲ信頼セラレタシ。又今度ノ戰爭デハ日本ノ御力ヲ借リル要ナシ。シカモ戰爭ノ結果ハ必ず日本ノ爲ニモ有利ナルベシ」ト云フコトデアツタ。又獨乙最高軍事當局者ハ大島大使ニ對シ「今次作戦ハ恐ラク四週間ニテ終ルベシ。戰爭ト名ノ付クモノデナク一ノ警備措置ト見ルベキモノナリ」ト言明シタ。六月二十二日ニ至リ遂ニ獨ソ戰ノ火蓋ハ切ラレタ。英米ハ直ニソ

聯援助ヲ聲明シタ。ソ聯ハ明ラカニ英米ノ陣營ニ入ツタ。日ソノ關
 係ニハ當分變化ナシトハ云ヘ三國同盟ノ前提タル日獨ソノ連携ハ最
 早絶望デアアル。日本ト獨乙トノ交通ハ遮斷セラレ三國同盟ハ現實ニ
 其效用ノ大半ヲ失ツタノデアアル。其ニ平沼内閣當時ソ聯ヲ對象トス
 ル三國同盟ノ議ヲ進メナガラ突如其相手ノソ聯ト不可侵條約ヲ結ビ
 タルコトガ獨乙ノ我國ニ對スル第一回ノ裏切行爲トスレバソ聯ヲ味
 方ニスベク約束シ此約束ヲ前提トシテ三國同盟ヲ結ンデ置キナガラ
 我國ノ勸告ヲ無視シテソ聯ト開戦セルハ第二回ノ裏切行爲ト云フベ
 キデアアル。隨テ此時日本トシテハ當然三國同盟ノ再檢討ヲナスベキ
 權利ト至當性ヲ有スル次第デアアル。余ハ當時三國同盟締結ノ理由乃
 至經過ニ鑑ミ本條約ヲ御破産ニスルコトガ當然ナノデハナカラウカ
 ト軍部大臣トモ懸談シタコトデアツタ。然シナガラ獨乙軍部ヲ信頼

8

B 4 (四京五〇二)

スルコト厚キ我陸軍ハ到底カ、ル説ニ耳ヲ傾ケ様トシナカツタ 殊
ニ緒戰ニ於ケル獨乙ノ大戦果ハ一層我陸軍ヲシテ其確信ヲ強メシメ
タ様デアアル 爰ニ於テ余ハ次ノ結論ニ達シタ 即チ三國同盟ノ再檢
討ハ到底我國內事情ガ許サザルノミナラズ昨午締結シタバカリノ同
盟ヲ今直ニ廢棄スルガ如キハイカニ相手方ノ裏切行爲ニヨルトハ云
ヘソレハ裏面ノ話デアツテ表面ハ我國ノ國際信義ノ問題トナル 故
ニ今三國同盟其物ヲ問題トスルハ適當デナイ 然シナガラ已ニ獨ソ
開戦トナツタ上ハ同盟ノ主タル目標ノ一デアアル所ノ日獨ソ提携ノ希
望ハ完全ニ潰エ去ツタノデアリ カ、ル條件ノ下ニ於テ將來三國
同盟ヨリ生ズルコトアルベキ危險即チ對米戰爭ノ危險ニ陥ル如キコ
トアラバ我國トシテ由々シキ一大事デアアル 第一ソレデハ同盟ヲ結
ンダ意義ガ全ク失ハレル次第デアアル 故ニコノ危險ニ對シテハ十分

備へル所ガナケレバナラヌ ソレハ日米接近ノ外ニハナイ 然カモ
 日米接近ノ可能性ハ同盟締結前ニ於テハ絶望視サレタガ當時ニ於テ
 ハムシロ大ニ有望視サレタノデアアル 何トナレバ歐洲ニ於テ英國ノ
 窮境ヲ救ハントスル米國ハ太平洋ニ於テ日本ト事ヲ構フルコトヲ極
 力回避セントシテ居タカラデアアル 現ニ日米交渉ハ其年四月ヨリ始
 メラレテ居ル 余ガ三國同盟ニ多少冷却日影響ヲ與フルコトアリト
 モ日米交渉ハ是非成立セシメネバナラヌト決心シタノハ此爲デアツ
 タノデアアル

三國同盟成立事情及其具体的目標ハ右申述べタル如クデアアル 然
 ルニ最近我戰局頗不利ナルニ加ヘテ獨乙崩壞ト云フ重大事實ニ直面
 シ一部ニハ三國同盟締結ニ對スル責任ヲ云々スルモノアルヤニ聞ク
 仍テコ、ニ余ノ所見ヲ述ベテ置キタイト思フ

B 4 (西京五〇二)

余ハ今以テ三國同盟ノ締結ハ當時ノ國際情勢ノ下ニ於テハ止ムヲ
得ナイ妥當ノ政策デアツタト考ヘテ居ル 卽獨乙トソ聯トハ親善關
係ニアリ歐洲ノ殆全部ハ獨乙ノ掌握ニ歸シ英國ハ窮境ニアリ米國ハ
未ダ參戰セズ カ、ル狀勢ノ下ニ於テ獨乙ト結ビ更ニ獨乙ヲ介シテ
ソ聯ト結ビ日獨ソノ連携ヲ實現シテ英米ニ對スル我國ノ地歩ヲ強固
ナラシムルコトハ支那事變處理ニ有效ナルノミナラズコレニヨリテ
對英米戰ヲモ回避シ太平洋ノ平和ニ貢獻シ得ルノデアル 隨テ昭和
十五年秋ノ狀勢ノ下ニ於テ獨乙ト結ビシコトハ親英米論者ノ云フ如
ク必ズシモ我國ニ採リテ危險ナル政策ナリシトハ考ヘラレヌ 之ヲ
強イテ危險ナリト云フハ感情論デアル 感情論ニ非ザレバ獨乙ノ敗
退ヲ見テ後カラツケタ理窟デアル

トカク我國ノ外交論ニハ感情論ガ多イ 同盟締結當時ノ反對論モ

主トシテ親英米の感情ヨリ發シタルモノ多ク英米ノ勝利獨乙ノ敗退
ヲ科學的根據ヨリ豫想セル先見ノ明ニ本ヅクモノデハナカツタ儀デ
アル 故ニ親英トカ親獨トカ云フ感情ヲ離レテ冷靜ニ日本ノ利害ヲ
中心トシテ考ヘル立場ヨリ見レバ是等ノ反對論ハ十分首肯出來ナカ
ツタ

然シナガラ昭和十五年秋ニ於テ妥當ナリシ政策モ十六年夏ニハ危
險ナル政策トナツタノデアアル 何トナレバ獨ソ戰爭ノ勃發ニヨリテ
日獨ソ連携ノ望ハ絶タレソ聯ハ厭應ナシニ英米ノ陣營ニ迫マレテ
シマツタカラデアアル 事コ、ニ至レバ獨乙トノ同盟ニ尙拘泥スルコ
トハ我國ニトリテ危險ナル政策デアアル 已ニ危險ト感じタル以上ハ
速ニ方向轉換ヲ圖ラネバナラヌ 爰ニ於テ日米接近ノ必要ガ生ジタ
ノデアアル 然ルニ陸軍ハ此期ニ及ンデ尙獨乙トノ同盟ニ執着シ余ノ

心血ヲ瀝キタル日米交渉ニ對シ種々ノ橫槍的注文ヲ發シ遂ニ太平洋ノ破局ヲ齎シタノデアアル。コレ亦日本ノ利害ヲ冷靜ニ檢討シタル結果ニ非ズシテ主トシテ親獨的感情ヨリ發シタルモノト思フ。感情論ガ外交ヲ左右スルコトノイカニ恐ルベキカヲ知ルベキデアアル。

同盟反對論者ハ米國ノ對日態度ハ三國同盟ヲ契機トシテ俄然強硬トナリ遂ニ日米開戦トナツタ。故ニ日米開戦ノ原因ハ三國同盟ノ締結ニアリト云フ。然シナガラ之ハ法理ニ反シ又事實ニ反スル。

法理上カラ云へバ日本ハ米國ガ獨乙ニ宣戦シタル場合ニ於テ始メテ米國ニ宣戦スル義務ヲ生ズル。然ルニ昭和十六年十二月日本ハ米國ガ未ダ獨乙ニ宣戦セザル其前ニ進ンデ米國ニ對シ宣戦シタノデアアル。故ニ宣戦ノ詔書ニモ三國同盟ト云フ文字ハ全然見出サレナイノデアアル。即チ法理上ヨリ云へバ日米開戦ト三國同盟トノ間ニハ何等

因果關係ハナイ

次ニ事實上ニ於テモ其間ニ因果關係ハナイナルホト三國同盟ノ結
 結ガ英米ノ輿論チ一層激化シタコトハ事實デアアル 然シナガラ例ノ
 通商條約廢棄ノ如キハ同盟締結即十五年四月ニ已ニ行ハレテ居リ
 又カノ資産凍結令ノ如キハ同盟締結後約十ヶ月ヲ經タル佛印進駐チ
 契機トシテ行ハレタノデアツテ同盟締結ノ直接ノ反響トシテハ具体
 的ニ何モ表ハレナカツタノデアアル 殊ニ日米國交調整チ目的トスル
 日米交渉ガ同盟締結後約半歲ヲ經タル昭和十六年四月米國ノ提議ニ
 ヨリテ開始セラレタト云フ事實ハ三國同盟ト日米開戦トノ間ニ事實
 上因果關係ナカリシコトヲ物語ルモノデアアル